

第5章

まとめと今後の課題

1.1 まとめ

今回の地震と津波が発生した当初は、M9の地震は1,000年に1度の大規模な地震と言われた。しかし、M8.6と推定されて来た1707年の宝永地震は東海、東南海、南海のプレートが同時に連動したM9以上の地震であった可能性が言われている。そうだとすると、これらの3プレートが連動するか否かは、現在の我々の知見の範囲では偶然でしかないから、約100年毎にはM9クラスの地震を予期するしかない。日本全体では数十年に1度くらいの高頻度で大津波の危険に曝される勘定になるであろう。

日本は戦後沿岸部の埋め立てで住宅地の造成や産業立地を進めてきており、この沿岸部の津波からの保護は国の死活に関わる重要性を帯びていると言える。

今回甚大な被害を蒙った三陸沿岸等の地域の復興は短期間で成るものでは勿論ない。将来同様の被害が予想される西日本太平洋沿岸地域の備えが完成するまでにも同様に長い期間がかかる。今までの慣習や常識に捉われない抜本的な取り組みが樞要なことを、今回の東日本大震災は教えてくれたのだと思う。

発生年月日	M	南海地震	東南海	東海
1605.02.03 (102年)	7.9		慶長地震	
1707.10.28 (147年)	8.6		宝永地震	
1854.12.23	8.4		安政東海地震	
1854.12.24 (110年)	8.4	安政南海地震		
1944.12.07	7.9		昭和東南海地震	
1946.12.21 (??年)	8.0	安政南海地震		
2???	??			